

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 奥本陽子
所属 (School) 人間社会学研究科
学年 (Grade) 博士課程 3年

留学先 (Name of overseas institution)
Southern Oregon University
留学期間 (study abroad period)
2017年9月13日~21日

記入日 (Date) 9月22日

留学レポート Study Abroad Report

今回、2nd International Holistic Teaching and Learning conferenceに参加するため、アメリカ合衆国オレゴン州アッシュランドにある Southern Oregon University (南オレゴン大学)を訪れました。会議では14日にレセプション、15、16日、17日午前中にパネルディスカッション、発表、ワークショップに参加し、会議終了後サンフランシスコで、研究テーマであるシュタイナーの思想を取り入れた学校を訪問しました。初めに南オレゴン大学について、次に発表やパネルディスカッション、ワークショップについて、最後に訪問した2つの学校について報告をします。

Southern Oregon University (南オレゴン大学)

南オレゴン大学はリベラル・アーツ・カレッジの1つで、学生数は6200名ほど、空港から30分くらい離れたアッシュランドという文化と芸術にあふれた小さな町にあります。私が訪れた時期はちょうどシェイクスピア祭りの時期にあたり、3時間に及ぶ「ジュリアス・シーザー」や「お気に召すまま」といったシェイクスピア劇の他、夜には野外で行われる無料のコンサートやミュージカルを楽しめました。緑に囲まれた美しいキャンパスでは鹿やリスが駆け回るのどかさで、落ち着いて学業に取り組める環境にあります。教育学部では、ホリスティック教育の研究センターを創設する準備が進められているとのことで、実現すればうれしいところです。

2nd International Holistic Teaching and Learning conference (発表・ワークショップ・パネルディスカッション)

この会議が南オレゴン大学で行われるのは2度目ですが、ホリスティック教育の創始者である Jack Miller 教授のもとカナダのトロント大学で長く行われてきた会議を引き継いだものです。ホリスティック教育に関わる大学関係者や教師だけではなく、実際にそのような教育を受けている高校生数人も発表に参加するなど、理論はもちろん、実践に満ちた発表が相次ぎ、活気ある会議になりました。ホリスティック教育は、現代の教育で失われがちな関係性や創造性、スピリチュアリティ、共感や本質的な気づきなど人間がその全体性として人間であるために大切なものを様々な形で教育に取り戻そうとする試みです。毎朝行われた5人のパネリスト(写真中央 Miller 教授、左よりアメリカ、タイ、オランダの学者)によるディスカッションでは、ユーモアや個人的な体験も交えつつ、ホリスティック教育の意義や課題について討論が行われました。米国の国内情勢、世界情勢の影響もあってか、しばしば shadow という言葉と共に現わされた人間の負の感情、恐れや憎しみ、対立をいかに包含しつつ、その理念を実践していけるかということについて、フロアからの意見表明を含めて真剣な討議がありました。

さて、発表はラウンドテーブル形式と体験・ワークショップ形式のものと二つありましたが、私はラウンドテーブルを選びました。大きな部屋で10人くらいの発表者がそれぞれの円卓に座り、1時間の枠の中で自分のテーマについて発表をし、テーブルに来てくれた人の質疑応答に答えます。参加者は関心のあるテーマを選び、一度席に着いたら基本的には動きません。PCを使った通常の発表とは異なり、全員で同じ資料を見つめることがないのがやりにくいですが、発表の後は内容についてのオープンなディスカッションができます。私のテーブルにはシュタイナー教育の実践者がたくさん来てくれたので、理論的な発表内容を現実の問題として捉え、活発に質問、発言してくれました。

